

水耕栽培を用いた
有機野菜の可能性について

海老名維新の会 伊左次 雄介



問 市内の水耕栽培の現状と今後、また、耕作放棄地や空きビニールハウスの今後の活用について伺います。

答 (経済環境部次長) …一部の個人生産者がビニールハウスでトマトやバラを水耕栽培していますが、事業者の状況は把握していません。この個人生産者からは、成長が早く収穫量が多く品質が安定していると伺っています。

無農薬栽培が可能で連作障害が生じない反面、設備への初期投資や管理コストがかかり、根菜類などには適さないという面もありますが、栽培する手法や品種などは生産者の意向によることになります。耕作放棄地や空きビニールハウスの活用も所有者の意向に沿った形になります。

問 学校給食への有機野菜の使用状況と今後を伺います。

答 (教育部次長) …必要量の確保や規格をそろえることが難しいので有機野菜は使っていませんが、令和6年度に農業支援センターが学校給食食材の生産者登録制度を開始したことで、使用する地場産野菜の種類が増えています。

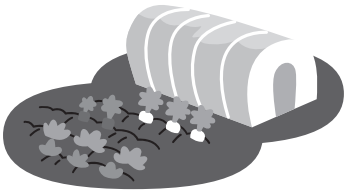
この地場産野菜の使用を拡大していく中で有機野菜の使用について研究していきたいと考えています。

問 災害時の野菜食糧備蓄の現状と今後を伺います。

答 (危機管理担当部長) …生野菜は長期保存が利かず、相当数をローリングストックするのは困難なため備蓄はしない一方で、市内で食料品を扱う複数の店舗事業者と協定を結び、災害時には協力が得られる体制を整えています。市全体が被災した場合は、相互応援協定を結んでいる近隣市や他県の自治体から支援が得られる体制になっています。

その他の質問

・市民活動推進補助金事業について

海老名市本庁舎等駐車場の
有料化について

無党派 田中 ひろこ



問 庁舎利用時間分は無料ですが、ゲートバーや発券機の設置費や維持費が発生し、出入庫の手間や利用時間を気にすることが市民には大きな負担になります。市民への周知は、広報えびなでのパブリックコメント募集記事と市長タウンミーティングだけです。予定では令和7年6月に工事着工、10月に供用開始という速さで、市民とともに考えるべきことなのに、考えれば考えるほど悩ましい選択です。従来のゴム印カードによる対応はできないのでしょうか。

答 (財務部次長) …ゴム印カードでの管理は利用時間や料金の把握に不明瞭な部分があり、利用者とのトラブルも懸念されることから機械による管理が適切だと考えています。

問 将来的に庁舎利用時間分も有料化しないと約束できるのか、伺います。

答 (財務部次長) …駐車場使用料を変更する場合は条例改正が必要になりますので、その際には議会にお諮りするものと認識をしています。

問 喫茶や食堂の利用時間、窓口を待つ間の買い物の時間、育児相談の時間の扱いや、催事広場は無料のままかなど、具体的なことを決めずになぜ条例制定を急ぐのでしょうか。

答 (財務部次長) …現在、市役所周辺の民間駐車場は利用台数が多い状況ですが、今後まちづくりが進んでマンションや商業施設ができると民間駐車場の数は減り、市役所駐車場の目的外利用が増えることが考えられます。

市としては、市役所などの利用者が今後も適正に駐車場を利用できる環境を、まちづくりが進む前に整えたいと考えています。

その他の質問

・職員が安心して働くことができる環境づくりについて



健康都市づくりについて

政進会 大塚 真樹



問 市の健康増進施策が、市民の健康意識の向上や実際の健康状態の改善にどのように寄与しているのか伺います。

答 (市長) …主な取り組みとして生活習慣病検診をはじめとした健康増進事業のほか、市民が主体的かつ積極的に健康づくりに取り組めるよう、さまざまな運動や検診をポイント化したえびな健康マイレージ事業を実施しています。

答 (保健福祉部次長) …市からの働きかけとしては、コミセンでの保健師や管理栄養士による相談会や、びなウエルでの健康教室の開催、また自らの健康状態の見える化を目的とした未病センターの設置など、今後も市民が自ら積極的に健康づくりに取り組める環境整備を行います。

問 健康増進施策が十分に浸透していない、市民の参加率が伸び悩んでいるなどの課題について伺います。

答 (保健福祉部次長) …健康への無関心層にいかに関与させるかが課題と認識しています。健康寿命の延伸に向けて自らの健康は自らつくるという意識づけが今後ますます重要になると考え、より多くの方が自らの健康に関心をもってもらえるような普及啓発、事業の充実を図ります。

問 歩行が生活習慣病の予防に果たす役割について、どのように捉えているか伺います。

答 (保健福祉部次長) …運動不足は肥満、高血圧、糖尿病などに関連する病気や筋力の低下、関節などの運動器疾患が生じやすいため、身体活動の活性化や運動習慣の増加を推進する必要があります。今後も市民が自ら積極的に健康づくりに取り組めるよう、ウォーキングイベントなどの環境づくりを推進してまいります。

その他の質問

・高齢者が安心して暮らせる地域づくりについて

